



さくら



校訓「ほんきで なかよく きまりよく」【学校創立152年・地域に支えられ、がんばる桑っ子】

学校教育目標 …「夢に向かい 感性を育む 桑っ子」

重点目標…「認め合い、伝え合う子」

夏休み中に考えてほしいこと

34日間の夏休みが始まります。長期の休みなので、普段できない体験や時間をかけて成し遂げることなどに挑戦してもらいたいと思っています。そして、海や山の事故などについては、子供だけでなく保護者の方々にも十分に気を付けていただき、無理せず安全第一でレジャーなどを楽しんでいただきたいと思います。様々な注意事項については、学年団だよりなどでお知らせしました。ここでは、私からこの夏休み中に家族で考えてみてほしいことについて以下に記します。

8月6日の広島に何度か行ったことがあります。蝉の音が響く公園。多くの人たちが臨む式典、配られるおしぼりの冷たさ、平和を訴える高校生の声、無数に飾られている千羽鶴、静かに佇む原爆ドームなど、何かはわかりませんが、心を圧倒する雰囲気広島中を包んでいました。80年前ここで起きたできごとを、自分を含め、多くの人たちは知りません。「戦争を知らない子供たち」という歌がありましたが、今は戦争を知らないということすら知らない時代になっているように感じます。いや、戦争は今も起きています。でも、日本にいる多くの人は実は知らないのだと思います。



朝の連続テレビドラマ「あんぱん」で、主人公のぶは、国民学校の教師として、戦争に協力的な教育を進んで行います。それがお国のためになると信じていたからです。しかし、終戦後、そんな自分を恥じて教師を辞めます。のぶは、戦争を知らなかったのだと思います。自分の大切な人を失ったとき、初めて戦争とは何かを知ることになりました。何万、何千の人が亡くなっている事実を知っていても、それで戦争を知ったことにはなりません。それよりも、たった1人の身近な人が亡くなって初めて戦争が自分事として理解されます。そう考えると、今の日本に戦争を知っている人はとても少ないのかもしれない。

では、戦争を知らない私たちは、どうしたらいいのでしょうか。一つ言えることは、少なくなったとは言え、広島だけでなく、日本の多くの場所に、戦争を知っている人がいます。その人たちの言葉に耳を傾けることです。爆撃を受けて亡くなった人にも家族がいて、それを悲しむ人がいます。その人たちが何を思い、何を願っているのだろうか、想像力を発揮して考えることが必要です。そして、私たちの心の中に潜む偏見や憎しみをもたらすものをしっかりと捉え、取り除いていかななくてはなりません。誰にも人権があり、人として尊重していかななくてはならないという気持ちを持ち続けることが大切です。

私は、広島原爆被害を知りません。でも、平和記念公園にある石碑の前に立つと、なぜか涙がこみ上げてきます。犠牲者から大きな責務を担わされていることだけは分かります。「安らかに眠って下さい。過ちは繰返させぬから」平和を願う心は、万国共通で、とてもシンプルなものです。それをわかりにくくしているのは、政治であり、社会であり、私たち大人の責任なのかもしれません。

長いようで短い夏休み。8月6日から8月15日までの期間に、「多くの方々の犠牲によって成り立っている今の平和をどうやって守っていくのか」「今ある戦争に対し、どのように向き合っていけばいいのか」など、平和について考えてみることも大事だと思います。小学生には難しいかもしれませんが。だからこそ、命の大切さ、みんなと仲良くすることの意味など、身近なことからじっくりと話し合ってみてはどうでしょうか。



夏休み中も基本的に学校は開いています。何か相談や困りごとなどがありましたら、いつでもご連絡ください。8月27日、子供たちが一回りも二回りも成長し、元気な姿でまた学校に戻ってくることを願っています。 文責 関口

桑村小学校アルバム

4～7月

